

## 新教育ビジョン策定に向けた審議会委員等による意見一覧

## (3) 教育に関する取組の基本的な方向性など (意見区分C)

## 提出意見

## 【審議会委員からの意見】

- 第一に、多角的なサポートや、支援が必要なことを前提として、SDGsにあるように、「質の高い教育をみんなに」という課題を解決すること。が、ある。インクルーシブや、教育(学習)格差の問題などで、声をあげられない方々の声を吸い上げたり、取りこぼしを無くすことを目的としながら、一方で、興味や能力を伸ばしたい子どもが、より深い学びを探求し、存分に成長できる環境をつくることも大切にしていける必要がある。
- ICTをツールとして活用し必要な情報を自ら取捨選択する力をつけていくことが必要とされていると感じる。一方で人との関わりを通して、自分の個性も活かし、そして他者を理解し、共生していく力を育てていくことも大切だと感じる。
- 教育ビジョン2012の検証をした上で、2022の大きな方向性について協議したい。細かな各論や対応策ではなく、教育の本筋で何を指すのかという高所大所からの議論をするのが審議会ではないか。その上で、2012から継続すべきこと、改善・変更すべきこと、新たに付け加えることを考えていくことが大切である。校長会代表として出席しているが、学校教育の担い手である各校長からの意見もパブコメよりもずっと前の段階で吸い上げてほしい。
- どのような教育を行うとしても、手段や環境の整備として、ICTの活用、教職員の働き方改革、社会や企業との連携、は重要となると考えます。
- 学区の見直し。連携する小学校を中学校区の学区と一致させ、連携型でも小中一貫教育が推進できるようにする。⇒ 児童・生徒減を見越した統廃合計画の策定
- 中学校区単位で、地域教育推進協議会を設置し、地域の教育を連続して考えられる組織体を作る。(各校の学校運営協議会の集合体)⇒地域分権の推進
- 生涯学習の基盤づくり。中学校区を単位として、総合型地域文化・スポーツクラブを組織し、学校施設を活用した社会教育を充実させる。合わせて、小学校の放課後活動、地域スポーツ、中学校の部活動の社会体育へ移行する。

<参考>関係団体等から出された意見

## 【区立子供園園長会】

- 多様性を認める(特別支援も含む)
- 幼児教育アドバイザーの充実
- 地域、保護者とのつながりの中で教育者が、子どもをしっかりと育てると共に、地域や保護者の役割も明確にし、共に育てる大切さを共有する。
- 生きる力の基礎を培う幼児教育が全ての教育の基礎となるということを園と学校、保護者、地域と共有し、生涯学び続ける人を育てる。
- 幼小中高という縦の軸と地域保護者の横の軸が交じり合っ、お互いの役割を認識し合う。それぞれの教育の大切さを知り、お互いを生かしあう。

## 提 出 意 見

### 【区立中学校校長】

- これまで、スポーツを通じた取組や、それに関連した取組として、「オリンピック・パラリンピック」という1つの大テーマが学校教育内に置かれていたが、オリンピック・パラリンピック終了後、それに変わる大テーマがすぐに国や東京都から示されるものではないと思う。そこで、区として「オリンピック・パラリンピック」に変わる次の大テーマを早急に掲げ、学校教育内で数年かけて子供たちが取り組んでいければと思う。
- 中教審答申を見据え、そこから一歩進んだ杉並の教育ビジョンにしていきたいと思えます。
- 特に小中一貫教育は、令和2年度に高円寺学園が開園して以降、今後について曖昧な状況になっています。今後、何を目指し、その実現に向けてどのように進めて行くのか盛り込んでもらいたい。
- 英語教育の充実（英語を自在に使いこなす児童・生徒の育成）→英検、Toefel Junior、Gtecなどの民間試験の全校導入。ALTの拡充（時数増、質の向上）、ウィロビー派遣生徒数の拡充等。
- 情報リテラシーの向上（高い情報モラルをもち自在にPCを使いこなす事のできる児童・生徒の育成）→PC、ネット環境の充実、全教科デジタル教科書導入、支援員の拡充、3Dプリンター、ロボット、ドローン等を用いた学習の開発など
- 全教室のエアコン設置
- 人口芝への変更
- 不登校児童・生徒の社会的自立への支援→ICTを活用した支援の仕組み、スクールカウンセラー配置拡充、校内外の居場所づくり等
- 部活動支援員の拡充
- 教員の働き方改革の推進（学校の経営力の向上）→区費管理職の学校配置（副校長・校長）
- 家庭教育・地域教育・学校教育の機能を生かして進める仕組み作り→全中学校区での「地域教育推進協議会」の設置
- 「キーワード」を具現化するための手段として、ハード面、ソフト面、人事面の充実あまり余分なことは考えません。新課程を進める方向だけでとを考えます。

### 【調整会議委員】

- 「① 長寿命化の標準的な整備の手法や水準は、各種の上位計画で示されているが、着実な実現は、財政的視点から見ると極めて困難な状況にある」「② その前提として、区の学校施設は、どのような実態であると認識（事務局内、学校現場、地域などで／施設の老朽化、バリアフリー、…）されているのか。すべきか」「③ 特に、直近の10年間では、過去5年間の改築・改修に要した経費（約34.7億円/年）の1.55倍（約54億円/年→40年間では1.27倍）の経費が必要となるとの試算から、②の実態・認識のもと、必要な対策（整備の質と量）をどの程度の財政規模（年〇〇億円規模）で均衡を図るのか。幅広い議論のもと施設整備の方向性を見極める必要がある。」一方で、ICT、GIGAスクール、リモート授業、中長期的な少子化などなど、これまでに経験のない新たな社会・教育環境の中で、学校施設は、どのようにあるべきなのか。これまでの整備水準の継続を目指すのか、（現実的、未来的）見直しをするのかの示唆を求めたい。
- その他、「別紙」参照

(3) 教育に関する取組の基本的な方向性など (意見区分C)

【意見内容】

